



## そるって喜びの笑顔 普及会、農林水産大臣賞に輝く

P 2～7 西会津町誕生60周年特集

歩み つなぐ 未来へ。

P 8～11 まるごと元気発信。

西会津ふるさとまつりフォトギャラリー



# 歩み つなぐ 未来へ。



③



②



①

西会津町ケーブルテレビ開局10周年記念式典  
デジタル放送開始記念ケーブルテレビフェア

⑥



⑤

にしあいつモニユメシ  
県平良市との友好都市

④



⑨



⑧



⑦



**2007(平成19)年**  
4月 〓にしあいつ水  
里環境委員会設立、農地・  
水・環境保全向上対策事  
業が始まる、6月 〓健康  
講演会・シンポジウムin

**2006(平成18)年**  
3月 〓テレワークセン  
ター完成、4月 〓にしあ  
いつ地域包括支援センター  
開設、5月 〓町職員10名  
で組織する協働のまちづ  
くりプロジェクトチーム  
が発足、12月 〓町ケーブ  
ルテレビ地上デジタル放  
送の試験放送を開始

**2005(平成17)年**  
4月 〓協働のまちづく  
り推進を目的に前三重県  
知事・早稲田大学大学院  
の北川正恭教授の講演会  
開催(約400人が聴講、  
演題は「住民参画による  
地域経営」住民自治基本  
条例「町の憲法」の制定)、  
6月 〓委員50名で組織す  
る西会津町まちづくり  
委員会が発足、第1回ま  
ちづくり委員会を開催し  
住民自治基本条例策定  
に向けた検討作業が始ま  
る、7月 〓沖縄県平良市  
(現宮古島市)と友好都市  
締結

私たちは、今こそ一人ひとりが積極的にまちづくりに参加し、ともに助け合い、「すべてにやさしい健康のまちにしあいづ」を目指して、町民の英知を結集し、厳しくても力強く着実に前進していかなければなりません。そのため、愛する郷土西会津のまちづくりについて、町民が主役となり、町民と議会と行政の三者が、互いに信頼を深め、それぞれが役割と責任を自覚し、「協働によるまちづくり」を進めていく基本的な考え方としくみを明らかにするため、ここに西会津町まちづくり基本条例を制定します。



⑫



⑩



平成17年6月、町の憲法に位置付けられる「まちづくり基本条例」の策定作業が始まりました。「まちづくり委員会」の50名の委員の皆さんは2年4カ月にわたって検討を重ね、条例案を作り上げました。基本条例は平成19年12月の町議会で議決され、平成20年4月から施行されました。この条例づくりの作業そのものが協働のまちづくりの第一歩になりました。



⑭



⑬

写真=①住民参画の重要性を講演した北川教授[平成17年]／②③第1回まちづくり委員会[同]／④平良市との友好都市締結式[同]／⑤テレワークセンターでのIT活用講座[平成18年]／⑥デジタル放送開始記念ケーブルテレビフェア[平成19年]／⑦⑧健康講演会・シンポジウムinにしあいづ(⑦はノルディックウォーキング実技体験)[同]／⑨まちづくり委員会でのグループ討議結果発表[平成18年]／⑩まちづくり基本条例骨子案の奥川地区町民説明会[平成19年]／⑪まちづくり委員会の新田勉会長が町長にまちづくり基本条例案を報告[同]／⑫まちづくり基本条例を解説する手引きを全戸配布[平成20年]／⑬新町集会所での佐藤敦之選手大応援会[同]／⑭健康な土づくり10周年記念大会で講演するエーザイ生科研(株)の中嶋大地会長[同]

1954  
～  
2014

にしあいづを開催し女子栄養大学の香川靖雄副学長らが講演、7月西会津高校活性化対策協議会設置、11月まちづくり委員会が2年4カ月の検討を経て「西会津町まちづくり基本条例案」を町長に報告、12月町議会が西会津町まちづくり基本条例を議決

2008(平成20)年

3月雇用促進住宅西会津宿舎を取得(4月から入居開始)、4月西会津町まちづくり基本条例施行、ケーブルテレビ自主放送さゆりチャンネルのデジタル放送・データ放送を開始、町民バス野沢坂下線運行開始、6月町職員18名で町総合計画策定プロジェクトチームを組織、町民30名が委員となる町総合計画検討会を設置、8月西会津ゆかりの佐藤敦之選手が北京オリンピック・マラソンに出場、9月ケーブルテレビ高度化事業(光ファイバー化)開始、10月百歳への挑戦パートIV町民大会開催、11月健康な土づくり10周年記念大会開催

写真=①名誉町民顕彰を受ける新田正夫さん[平成21年]／②消防支援隊発足式[同]／③小学校適正配置審議会が小学校統合を答申[平成22年]／④「こゆりちゃん」に町キャラクターの愛称決定[同]／⑤新潟・福島豪雨(山郷発電所下流)[平成23年]／⑥東日本大震災で南相馬市から避難した阿部真奈実さんに「卒業称書」を贈る伊藤町長[同]／⑦国道49号藤峠の車両立ち往生(国土交通省提供)[平成22年]



60th Anniversary

西会津町誕生60周年特集 **歩み つなぐ 未来へ。**

# 60年の歩み

## 1954

### ～

## 2014



2011(平成23)年  
3月 東日本大震災が発生し町では震度5弱を観測、さゆり公園体育館に避難所を開設、6月 集落支援員配置、7月 新潟・福島豪雨により町内に被害発生、11月 野沢、尾野本、群岡、新郷、奥川各小学校で閉校記念式典

2011(平成23)年

4月 町総合計画に基づきまちづくりスタート、町キャラクターの愛称が「こゆりちゃん」に決まる、5月 小学校適正配置審議会が小学校を1校に統合することが望ましいと町に答申、7月 芝草保育所で一時保育事業開始、8月 無料職業紹介所開設、10月 第1回小学校統合推進委員会開催、12月 大雪により国道49号で車両約300台が立ち往生し自衛隊が災害派遣出動

2010(平成22)年

1月 テレワークセンター12号館開設、3月 林道青坂芝倉線全線開通、4月 町消防支援隊が隊員242名で発足、5月 町消防団が福島民報社表彰、民報金ばれん受賞、8月 伊藤勝町政がスタート、10月 第1回小学校適正配置審議会開催、11月 営本出身の新田正夫さんに名誉町民顕彰を贈呈

2009(平成21)年



平成21年8月に伊藤町政がスタート。同年10月からは小学校の適正配置に向けた検討が始まり、平成22年5月、小学校適正配置審議会は5回の会議を経て、早期に小学校5校を1校に統合することが望ましいと町に答申しました。町はこれを踏まえ、小学校統合に向けた作業を進め、平成24年4月、旧野沢小学校を校舎に西会津小学校を開校しました。平成25年9月には西会津小新校舎の建築を開始しました。

平成22年以降は相次ぐ災害に見舞われました。同年12月、大雪により国道49号で車両約300台が動けない状況になり自衛隊が災害派遣出動しました。翌23年3月には、東日本大震災、東京電力福島第一原発事故が発生しました。さらに同年7月には記録的な新潟・福島豪雨が町内に大きな被害をもたらしました。

平成21年8月に伊藤町政がスタート。同年10月からは小学校の適正配置に向けた検討が始まり、平成22年5月、小学校適正配置審議会は5回の会議を経て、早期に小学校5校を1校に統合することが望ましいと町に答申しました。町はこれを踏まえ、小学校統合に向けた作業を進め、平成24年4月、旧野沢小学校を校舎に西会津小学校を開校しました。平成25年9月には西会津小新校舎の建築を開始しました。



合併後の昭和32年1月、町では郷土史「西会津町」を刊行しました。これは戦後の刊行としては県内第1号で、2月1日の産経新聞福島版で報道され、さらに「週刊朝日」4月7日号に書評が載りました。

すると反響は大きく、農林省、広島市を皮切りに文部省、高知県、和歌山県から照会があり、問い合わせは全国からに及んで、当時、教育長の青津勇氏は「館報にしあいつ」第1号(昭和32年5月)で「郷土史は町民のためのもの」と題して「町民には誠に貴重な得難い記念の書」という談話を発表し、品切れになる前に購入するよう求めたそうです。

「町史第2巻・通史Ⅱ近代・現代より」

# 西会津 ヒストリー



写真＝⑧デマンドバス出発セレモニー[平成24年]／⑨奥川みらい交流館オープン式[平成25年]／⑩西会津小学校開校式[平成24年]／⑪鶴見区と友好交流協定締結[同]／⑫西会津小学校新校舎建築工事安全祈願祭[平成25年]／⑬三郷市と災害時相互応援協定締結[平成26年]／⑭野沢駅開業100周年祝賀セレモニー[平成25年]

2014(平成26)年

2月 埼玉県三郷市と災害時相互応援協定を締結、3月 橋屋橋建設工事起工式、4月 にしあいつ観光交流協会設立、6月 第1回総合計画検討会議を開催し町総合計画・後期基本計画の策定作業スタート、町消防団が福島民友新聞社・民友旗を受賞、9月 町民憲章を町議会が議決、10月 にしあいつ健康ミナラル野菜普及会が豊かなむらづくり顕彰・全国表彰で農林水産大臣賞を受賞

2013(平成25)年

6月 町地域おこし協力隊員を配置、9月 西会津小学校新校舎新築工事着工、10月 旧奥川小学校を改修した奥川みらい交流館がオープン、野沢駅開業100周年祝賀セレモニー開催、横浜市鶴見区にアンテナショップオープン

2012(平成24)年

2月 町農林産物加工研修所開所、4月 デマンドバス運行開始、西会津小学校開校式(全校児童272名)、横浜市鶴見区と友好交流協定締結、7月 第50回いいでん集い開催、11月 町民参加型健康まつりを初開催

## 矢部 律子さん [真ヶ沢]

やべ・りつこ 尾登生まれ



### 列

車通学だった小学生のとき、大山祇神社の参拝客が乗った臨時列車が何本も走る6月に、幼なじみと間違つて臨時列車に乗ってしまったことを懐かしく思い出します。二十歳のとき友人と、いでの集いに参加したことも思い出です。

昭和51年の春、真ヶ沢に嫁ぎ、祖父の病のため、すぐに農業に携わることになりました。無理だと思いつながら今日まで続けてこられたのは、家族や集落の皆さんの支えがあったからだと思っています。

町農業委員会主催のトラクターの免許取得に参加したこと  
も忘れられません。平成12年11

## 奥川を訪れてもらえるように できる限りトマトの直売を続け 古里を守っていききたい

月、矢吹町の県農業短期大学校で3日間特訓し、4日目に技能試験に臨みました。自分でも信じられませんが合格し、大型特殊免許を取ることができました。一緒に免許を取った人たちとは今でも時々会い、お世話になっています。

ミネラル栽培との出会いは、年々収穫量が減り、トマト栽培をやめようかと思っていたときでした。土壌分析の結果、中嶋先生から「土が死んでいる」と指摘され、土づくりの指導を受けながら栽培したところ収穫量は増加しました。夫とトマト作りを継続できたのはミネラル栽培のおかげです。このたび、にしい健康ミネラル野菜普及会の取り組みが農林水産大臣賞を受賞したことを本場にうれしく思っています。

農業の魅力は、土に触れ、そして自然の中で癒やされながら仕事ができることです。「おいしい」と言われると励みになり、買ってもらった人にさらに満足

してもらえるようにと一生懸命になります。これからの時代、農業や食が鍵になるのではないのでしょうか。

西会津町は、大勢の人のためまぬ努力により発展してきましたが、私たちは当たり前のように「行政にお願いすれば何とかしてくれる」と思って生活してきたような気がします。さまざまに困難に直面する今、一人一人できることを実践することが求められていると思います。

60歳の誕生日は、子どもたちみんなに祝ってもらいたい、思い出深い日になりました。私たちがしてもらったように子どもたち、若者たちに自然、古里を残し、つないでいかなければなりません。真ヶ沢にもコーヒーを味わえるブツクカフェができました。私も奥川を訪れてもらえるように、できる限りトマトの直売を続け、家族や集落の皆さんと共に古里を守っていききたいと思

平成9年10月に西会津町で開催された第2回ふるさといきいき村づくり全国サミットで農業科学研究所の中嶋常允所長が「土と食物といのち」と題して講演し(写真)、「健康な体は健康な食べ物から、健康な食べ物はミネラルを含んだ健康な土から」と提唱しました。このサミットをきっかけに中嶋所長から指導を受け、ミネラル野菜栽培が始まりました。



## INTERVIEW 2

## 伊勢亀 彰さん [さゆりが丘]

いせかめ・あきら 下小島生まれ



## お世話になつた地域の皆さんに 恩返しをしたい、何らかの形で 町発展のため役に立てれば

### 建

具職人の父の背中を見て育ちましたが、大工棟梁に弟子入りして修行し、22歳のとき独立しました。顧みると、経験が浅く、信用も低かった当時、今思えばよく会社を切り盛りできたと思います。若輩だったので毎日が勉強で、無我夢中で仕事に励んできました。家族、従業員、お客様に支えられ、今年、還暦を迎えるこ

とができました。

60年の町の歴史を振り返ると、さゆり公園整備や磐越自動車道の開通が町にとって大きく、画的だったと思います。

さゆり公園の場所は、以前、上小島、下小島共有のしば刈り山で、ワラビがたくさん採れました。ロータスインの辺りは田んぼが広がりカモの群れが泳ぎ回っていました。さゆり公園ができる前の下小島は不便な集落でしたが、公園や道路ができて様変わりしました。

また、磐越道の開通によって物流の効率、利便性が飛躍的に向上し、移動時間の短縮により人の流れが変わり、私の仕事にはとてもプラスになっています。

学校教育に、ほとんどかわってこなかった私に、尾野本小学校PTA会長に就いてほしいという話が来て、不本意ながら引き受けましたが、これが私にとって大きな財産になりました。子どもを育てていく上で大切なことをたくさん学ばせても

らいました。当時、一緒に活動した役員や保護者の皆さんに感謝しています。

西会津町は平成16年に市町村合併しないことを決めました。小さい町だからこそ、みんなが携わり、町の特色を生かした町づくりができる点が合併しなくて良かったと思います。

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故で被災した市町村では住民生活が一変しました。仮設住宅の建設などにかかわり、被災者の痛み、復興の困難さを痛切に感じています。

自立宣言に記されたように、われわれは、魅力ある町を築き、次の世代に引き継いでいかなければならないと強く思います。私自身、何でも実践してみないとなかなか分からないので、これからはさらに地域にかかわり、協働について勉強し、理解を深めていきたいと思っています。

今年4月、長男が西会津に戻ってきました。早く町になじんで仕事、家庭両面で後を継いでもらえればと期待しています。還暦を機に、今後は今まで以上に時間をつくってお世話になつた地域の皆さんに恩返しができる、また、何らかの形で町の発展のため役に立てればと思っています。

さゆり公園(野球場)の建設は、昭和55年10月に始まりました(写真)。野球場は同56年6月にオープンし、その後、57年6月に多目的広場、58年5月にテニスコート、59年9月に屋外プール、60年12月には体育館が完成し、平成元年5月12日、町では、さゆり公園完成総合オープン記念式典を開催しました。



まるごと元気発信。

## 第29回 西会津の文化と産業祭

# 西会津ふるさとまつり

町制施行60周年記念事業の今年度の西会津ふるさとまつりは、ちょうど紅葉が見ごろを迎えた11月1日、2日にさゆり公園で開かれ、町の食、農林水産物、特産品をはじめ、健康づくりなど西会津の元気をまるごと全国に発信しました。

2日に行われたメインイベント「第17回桐ゲタ投げ全国大会」には105人が参加し、小学生は7kg、そのほかの部門では参加者が13kgのジャンボ桐ゲタを思い切り投げ飛距離を競いました。競技途中、勢いよく投げられた桐ゲタの歯がとれるハプニングがありました。今大会の一般男子の部では、10m60cmの日本記録を持つ上野貴章さんが9m61cmの記録で、2位に約1mの差をつけ昨年に続き優勝を果たしました(右写真)。そのほかの部門は、小学生男子が高橋新史さん、小学生女子は板橋千波さん、少年男子は新田健人さん、女子の部では松原美穂さんが優勝しました。[写真=力いっぱいジャンボゲタを投げ飛ばす参加者]





オ

オープニングセレモニーでは、町ふるさと振興推進委員会委員長の伊藤町長が「今年も新たなイベントを取り入れさまざまな催しを企画しました。二日間楽しんでください」と来場者を歓迎し、威勢のいい鏡開きで、ふるさとまつりは開幕しました。

今回初めて「創作かかしコンテスト」が開かれ、メイン会場に展示された個性あふれる手作りかかしが来場者の目を楽しませました。また初日には新イベント「マラソン世界記録に挑戦」が開催され、参加者119人がバトンをつないで42・195kmを走り、マラソン世界記録に挑みました。ステージでは民俗芸能と民謡の集い、ミニコンサートなどが開かれました。

二日目には、健康がいちばん紅葉ウォーク、恒例の桐ゲタ投げ全国大会、ミュージックフェスタ、新企画・西会津ふるさと大抽選会などが行われました。二日間のヘリコプター遊覧飛行では、搭乗者が空から錦織りなす紅葉の景色を満喫しました。

会場には農家レストラン、町内のスイーツを販売する西会津まるごとマルシェ、出店コーナー、うまいもんまつりなどのブースが並び西会津の秋の味覚を求める来場者でにぎわいました。



開幕に花を添える

今年も喜多方市高郷町の「たかさど小町太鼓保存会」の皆さんがオープニングで勇壮に祭りばやしなどを披露し、開幕に花を添えました。



バトンつなぎ最後はみんなでゴール

新企画「マラソン世界記録に挑戦」では、1～72歳の町内外からの参加者が100mごとにバトンをつなぎ42.195kmを2時間41分37秒で走り切りました。世界記録2時間2分57秒には惜しくもあと一歩及びませんでした。



赤や黄色、色づく秋を堪能

健康がいちばん紅葉ウォークには県外のウォーキングクラブも参加しました。208人の参加者は、さゆり公園を出発し、5、7、10kmのコースにわかれて赤や黄色に染まった鮮やかな紅葉を見ながら町内を散策し心地よい汗を流しました。

- 表彰受賞者①は大賞・優勝、②は金賞・準優勝「敬称略」
- 【農業まつり部門】▼西会津一うまい米コンテスト①三瓶鉄江(コシヒカリ・出戸)、②荒海清隆(同・小綱木)、江川誠作(同・牧)、佐藤勘一(同・熊沢)、渡部栄次郎(同・出戸)▼穀類の部①石田弘(コシヒカリ・小綱木)、②須藤正光(同・萱本)、矢部隆一(ひとめはれ・小屋)▼野菜の部①佐藤廣子(シヨウガ・下野尻)、②新澤サトミ(ネギ・戸中)、斎藤百合子(コンニャク・上野尻)、武藤佐代子(サトイモ・柴崎)▼菌茸類の部①高久一志(生シイタケ・柴崎)、②三留満(同・青坂)▼果実の部①長谷川博巳(柿・松尾)▼農林産物加工品の部①三留真理(きくらげたづぷりしゅうが焼きのたれ・縄沢)、②齋藤えりか(食用ほおずきの焼タルト・芝草)▼農林業振興の部①にしあいづ健康ミネラル野菜普及会(ミネラル野菜栽培)
- 【高齢者・障がい者作品展】▼ものづくりの部①和久井スミ子(ミニ座布団・10町内)、②小原桂子(あけびつる手さげ・宝川)▼芸術文化の部①小柴ヨシ子(水墨画・下小島)、②清野スミ(川柳・下小島)▼介護サービス利用者の部①にこにこ相談所(ちぎり絵)、②河瀬文子(書・ミニデイスリーブス)



### 子どもかかし大賞は高松くん

第1回創作かかしコンテスト子どもの部では、高松そら 宙くん(西林東)の作品「ベジット」が大賞を受賞し、伊藤町長が表彰状を贈りました。



### 向原集落に西会津町長賞

35の団体・個人が出展した創作かかしコンテスト一般の部では、向原集落の作品、稲をさでに掛ける「なつかし農作業風景」が西会津町長賞に輝きました。



### 香ばしい香りが会場包む

今年も西会津漁業協同組合の皆さんが2日間、イワナ、ヤマメの塩焼きを販売しました。家族連れらが香ばしい香りに誘われるように販売ブースを訪れ、焼きたての川魚を味わいました。

### 新鮮野菜求め、にぎわう

にしあいづ健康ミネラル野菜市には白菜、大根といった秋野菜が並びました。ミネラル野菜普及会の皆さんは野菜の特徴、料理方法を説明しながら販売し、新鮮野菜を求める買い物客でにぎわいました。

ステージでは、民俗芸能と民謡の集い、ミニコンサート、ミュージックフェスタ、さゆりジャズフェスティバルが2日間にわたって繰り広げられ、ステージ前には聴衆が集まりました。ジャズフェスティバルでは軽快な音楽に乗った息の合ったダンスが披露され、客席を魅了しました。

### 華やかなステージイベントに大勢の聴衆



### 人気集めた 沖縄・大宜味の特産品

来町した沖縄県大宜味村の皆さんが、同村特産のかんきつ柑橘シークワサーや、その果汁を原料にしたジュース、みつなどの加工品を販売し、来場者の人気を集めました。



ふるさとまつりでは各イベントで抽選券を配布し、2日間を締めくり最後に大抽選会が行われました。1等選ばれた鈴木日出子さん(会津若松市)には、伊藤町長から西会津産コシヒカリ1俵が贈られました。

**1等は鈴木日出子さん 大抽選会**



体育館には、出品された米などの穀類、野菜、果実、キノコなど農家の皆さんの自慢の農林産物のほか、高齢者・障がい者の芸術作品、小中学生の図画、書写などの作品がずらりと展示されました。

**自慢の農林産物や作品並ぶ**



**小学生は7kgのゲタ投げ飛ばす**

大勢の観客や出場者が見守る中、日本記録更新を目指し、小学生は7kgの特大の桐ゲタを投げ飛ばしました。写真は小学生男子の部で5m72cmの記録で優勝した高橋新史さん(さゆりが丘)。



**大宜味村 宮城村長が初来町**

今年就任した大宜味村の宮城功光村長が初めて、ふるさとまつりに来町しました。宮城村長は、本町との相互交流を継続、発展させて一層絆を深めていきたいとあいさつしました。

**丞神デナーショーに親子集う**

西会津のローカルヒーロー丞神デナーショーには親子が集いました。子どもたちは、お父さん、お母さんと一緒に楽しいひとときを過ごしました。

**西会津ふるさとまつり  
フォトギャラリー**

**2014**

**まるごと**

**マルシェにも列**

西会津まるごとマルシェでは町内のスイーツ、お菓子を販売しました。ショーケースにはケーキなどが並び、甘味を求める来場者が列をつくりました。



## 西会津町青色申告会が全国総連合表彰を受賞

青色申告制度の普及などに貢献した団体、個人に贈られる全国青色申告会総連合・東北青色申告会連合会表彰を西会津町青色申告会(鈴木幸一会長)が受賞し、報告のため11月5日、鈴木会長と新田ミチ監事が町役場を訪れました。表彰式は10月9日に秋田県で行われました。

自ら税額を算定し、申告、納税する95の個人事業主で組織する町青色申告会では昨年、創立50周年記念式典を開催するなど同会への入会推進や電子申告の普及に努めてきた実績が評価され、このたびの受賞に至りました。鈴木会長は、「今後も個人事業主の健全経営に向け、青色申告会への加入を推進していきたい」と抱負を述べました。



## 韓国 江原道視察団 町の在宅健康管理を視察研修

遠隔医療システムによる在宅健康管理の拡充に取り組む韓国 江原道 翰林大学附属聖心病院を中心とする視察団が11月5日、来町し、自宅にいながら血圧などを測り保健指導を受けることができる本町の在宅健康管理システムの運用状況等を視察しました。郡山地域テクノポリス推進機構の地域間産業交流支援事業の一環で、同機構と聖心病院の医療関係者ら約20人が来町しました。視察団は、伊藤町長や町担当職員から予防医療の健康づくりの取り組み、在宅健康管理システムの導入経緯や運用状況などの説明を受けた後、ケーブルテレビ放送センターを視察しました。[写真=視察団の皆さんに町の取り組みを説明する伊藤町長]

## 醸造の安全祈願 松尾神社「上卯祭」

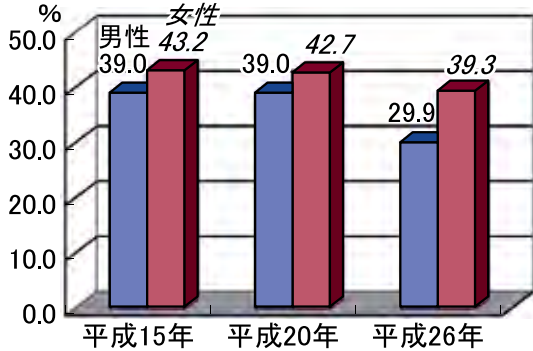
県内で唯一、酒の神様を祀る松尾神社で11月4日、秋の例大祭「上卯祭」が行われ、会津管内の蔵元の当主らが参列し醸造の安全を祈願しました。上卯祭は毎年、新酒の仕込みを始めるとよいとされる11月の卯の日に行われています。かつては越後杜氏が会津の蔵元に向かう途中、松尾神社を訪れ参拝したといわれています。沼澤文彦宮司が御神井から水をくんで松尾神社に運び、神事が行われた後、酒蔵の当主らは御神水を受け取り持ち帰りました。今年は喜多方酒蔵ツーリズム・モニターツアー参加者約40人が上卯祭を見学しました。[写真=御神水を持って参道を登る沼澤宮司(左)と酒蔵の当主ら]



## 紙アートの魅力紹介 半沢政人創作展

10月20日から11月3日まで西会津国際芸術村で、紙のアート半沢政人創作展が初めて開催され、三島町在住の半沢さんが紙アートの魅力を紹介しました。この紙アートは折りたたんだ紙に鋏を入れ、それを広げて、さらに折りながら作品を創り出します。創作展では、半沢さんが東日本大震災の被災者とかかわりから思い浮かべ描いた被災地の風景画が展示され、仮設住宅に暮らし、古里に帰りたくても帰れない被災者の思いを伝えました。11月1、2日の夜には、作品を光で演出したナイトミュージアムが開かれました。[写真=作品を手にする半沢さんと廊下の天井につり下げて展示された作品]

町の運動・スポーツをしている人の割合



※ 生活習慣と健康に関する調査結果から



こゆりちゃん体操が完成

町が、30歳以上の町民の皆さんを対象に行った生活習慣と健康に関する調査の結果、普段、運動やスポーツをしている人の割合は、左上グラフのとおり男女とも減少していることが分かりました。

適度な運動は、肥満や生活習慣病の予防のみならず、心の健康にも効果があることが認められています。

さらに、運動によって体力が向上し、寝たきり予防につながります。

交通手段の発達により、歩く機会が減り、また、労働の機械化といった社会環境の変化が運動不足を招き、これが肥満の原因になっていきます。

このため町では、町民一人1運動を推進しており、このたび町民の皆さんの運動の習慣化に向け、子どもからお年寄りまで体力に自信がない人でも気軽に取り組める「こゆりちゃん体操」を創作しました。

こゆりちゃん体操は、町ケーブルテレビこゆりちゃんニュースワイドでおなじみの「こゆりちゃんの歌」に合わ

町では今後、町民の皆さんが運動に取り組む第一歩になるようケーブルテレビやインターネットなどで、こゆりちゃん体操を紹介し、啓発していきます。

【問い合わせ先】  
健康支援係 ☎45-4532

運動を習慣に！一人1運動



健康づくりイベントで活動する佐藤トミ子さん(右)

健康運動推進員インタビュー

こゆりちゃん体操の創作にかかわった健康運動推進員の佐藤トミ子さん(上小島)に聞きました。

佐藤さん「体に負担をかけずに、誰もがができるように考えました。この体操は簡単に覚えやすいと思います。首から順に足首まで全身を動かします。音楽も親しみやすく、いつでも気軽にできますので、老人クラブなどで集まった際に、ぜひ挑戦してみてください。」

せて体を動かします。1番では上半身、2番で下半身を中心に体を伸ばすよう健康運動推進員の皆さんが考案しました。

室内でも簡単にできる体操で、準備運動や整理運動にお勧めです。

町では今後、町民の皆さんが運動に取り組む第一歩になるようケーブルテレビやインターネットなどで、こゆりちゃん体操を紹介し、啓発していきます。

体を動かしていますか？  
運動不足度  
チェック

- ① 近所1km以内または歩いて15分程度でも自動車を使う。  
(はい・いいえ)
- ② 歩くのが遅い。  
(はい・いいえ)
- ③ 長時間歩くと、ひざや腰が痛くなる。  
(はい・いいえ)
- ④ 休日は家でゴロゴロすることが多い。  
(はい・いいえ)
- ⑤ すぐに肩が凝る。  
(はい・いいえ)
- ⑥ 急いで階段を上ると、どうきや息切れがする。  
(はい・いいえ)

◆ 外出する機会を増やす。

◆ エレベーターではなく階段を使う。

◆ 常に良い姿勢を意識し、腹筋と背筋に力を入れる。

◆ テレテレビを見ながら体を伸ばす。

◆ 30分に1回は立って動く。

◆ 筋力トレーニングをする。

◆ 生活の質を高めることができます。同じ姿勢の時間を減らし、血液の循環を良くするため、できることから始めてみましょう。

◆ 運動によって気分転換やストレス解消、また腰痛、ひざ痛が改善する可能性が高まり、風邪にかかりにくくなるなど、生活の質を高めることができます。

生活の質をアップ

判定

「はい」が2つの場合Ⅱ運動不足の始まりです。

「はい」が3〜5つⅢ運動不足です。

「はい」が6つ以上Ⅳ要注意です。持病がある場合は医師に相談し、体力に合った運動を心掛けましょう。



- ⑦ 片足で立ったまま靴下をはくことができない。  
(はい・いいえ)
- ⑧ 家の中でつまずくことがある。  
(はい・いいえ)

## かぼちゃのおいしさが詰まった一品

# 優しい 甘さの かぼちゃ 蒸しパン

17

### 材料 (5個分)

蒸しパン粉(ホットケーキの粉)	200g
かぼちゃ	100g
卵	1個
牛乳	100cc
カップ(10号)	5個

### 作り方

- ①かぼちゃは皮と種を取り除き、3分の2を2cm角に切つて蒸す。残りは1cmくらいの角切りにする。(堅いので注意)
- ②ボールに卵を割りほぐし牛乳を加え、泡立て器で混ぜる。
- ③②に蒸しパン粉を少しずつ加えて混ぜ、蒸したかぼちゃを加える。
- ④湯飲み茶わんにカップを敷いて③を7分目までスプーンで入れ、生の角切りのかぼちゃをのせる。
- ⑤④を蒸気が上がった蒸し器に入れて約15分強火で蒸す。竹串をさし、きれいに抜ければ出来上がり。



## チャレンジ!!

シリーズ

# 食育

### ●第4の食事「おやつ」を考える

親子で、おやつ作り  
心と体をはぐくむ



### 朝

食、昼食、夕食の3回では不足する栄養を取るためのもう一つの食事「おやつ」は、一度に食べられる量が少ない幼児や高齢者にとって大切で、第4の食事といわれます。

おやつは、1〜2歳児の場合、午前と午後の2回、そのほかの児童や高齢者は午後1回、時間を決めて食べるようにしましょう。身近な材料を使って親子で楽しく、おやつ作りに挑戦してみましょう。

### おやつ の 役割

#### ◆栄養面

食事で取りきれないエネルギーや栄養、水分を補う。

#### 【おやつに向く食材】

ごはん(おにぎり)、果物、牛乳、乳製品、ふかしたサツマ芋や、煮付けたかぼちゃといった野菜がお勧めです。

#### ◆精神面

普段の食事とは違った食品や調理、盛り付け、彩り、香りなど食べる楽しさを味わえます。また、活発に活動する幼児にとって休息や気分転換の時間になり、さらに、おやつを作ることによって子どもの創造力を伸ばす機会になります。

#### ◆しつけの面

手洗いやあいさつなどの習慣、食事のマナー、食べ方を身に付けることができます。



### おやつ の ワンポイント

- おやつを食べた後、昼食、夕食まで2時間以上あけ、次の食事に影響がないようにしましょう。ジュース類など甘い飲み物も食事に影響します。
- 糖分、塩分が多いものはなるべく控えましょう。
- 牛乳、果物などいろいろ組み合わせましょう。
- きちんとテーブルに着いて食べる習慣をつけましょう。

手作りのおやつは安全でおいしいのでお勧めです!

# たすきつないだ16人

## 白河・福島間で力走披露

今年で26回目を迎えた晩秋の福島恒例行事、市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会「ふくしま駅伝」が11月16日に開催されました。25回連続出場の西会津町チームは、総合46位と昨年より順位を1つ下げましたが、総合タイムを1分以上縮め健闘しました。

今年のおくしま駅伝には県内59市町村から、複数市町村で混成する1チームを含め、53チームが参加し、白河市のしらかわカタルルスポーツパーク陸上競技場から福島市の県庁前ゴールまで16区間95・1キロで競い合いました。

大会当日、白河の最低気温は5度と肌寒く感じましたが、日中は日差しが照って絶好の駅伝日和になりました。

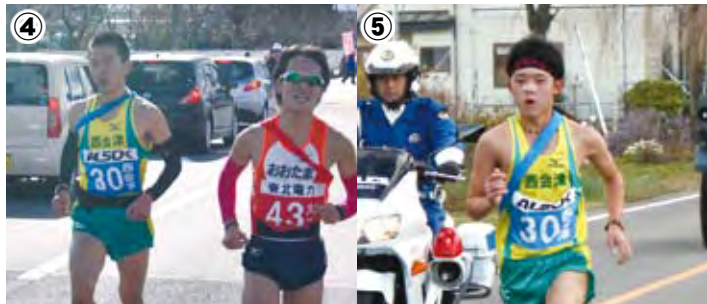
大会前日の15日、白河市中央体育館で開会式が開かれ、大田沙莉奈選手がプラカードを、佐藤茂哉選手が町旗を持って先導し、町チームは力強く入場行進しました。代表で大田沙莉奈選手

手が内堀県知事からたすきを受け取りました。

2年連続1区を務めた大田沙莉奈選手は、昨年より5つ順位を上げ、45位でたすきを渡し、順調に滑り出しました。続く2区の佐藤茂哉選手は区間37位の走り、39位に上げ、3区の伊藤重久選手も順位を維持しました。一般男子の強豪がそろった。



写真=①初出場で健闘した長谷川陸さん／②区間37位と好走した渡部和之さん／③ゴールする伊藤拓也さん



写真=④3年連続で最長の10区を駆けつけた薄上南平さん／⑤高校生エースがそろった2区で区間37位の走りを見せた佐藤茂哉さん

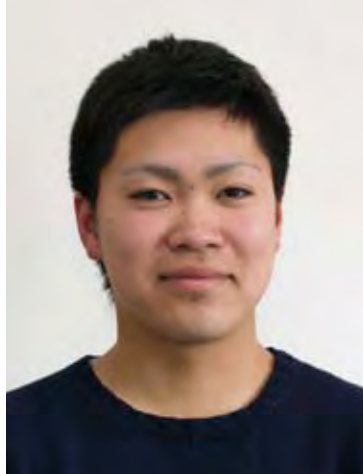
4区で44位に順位を落とし、その後、40位台半ばの走りが続きました。15区の熊倉美咲選手は初出場にもかかわらず区間33位とチーム内最高順位でタイム短縮に貢献しました。伊藤拓也選手が2年連続でアンカーを務め、県庁前のゴールテープを切りました。

中継所やゴールには、町実行委員会主催のツアーなどで町民の皆さんが応援に駆け付け、選手に熱い声援を送りました。

大会終了後、町内で開かれた解団式では、鈴木監督が来年のさらなる躍進を誓いました。

### チームメンバー紹介 敬称略

- 1区 大田沙莉奈 (西会津中2年・縄沢)
  - 2区 佐藤 茂哉 (米沢中央高1年・芝草)
  - 3区 伊藤重久 (西会津中1年・牧)
  - 4区 伊藤 峻 (喜多方高1年・塩)
  - 5区 長谷川 陸 (西会津高3年・さゆりが丘)
  - 6区 市橋 卓磨 (会津高2年・上野尻)
  - 7区 江川 遥人 (西会津中2年・芝草)
  - 8区 増子 泰成 (西会津中3年・さゆりが丘)
  - 9区 上野 真実 (西会津中2年・橋屋)
  - 10区 薄上 南平 (秋田県立大4年・上小島)
  - 11区 大田 聖羅 (喜多方高1年・縄沢)
  - 12区 渡部 貴之 (自衛隊多賀城・上小島)
  - 13区 渡部 和之 (喜多方消防署・上小島)
  - 14区 平野 大夢 (喜多方桐桜高1年・1町内)
  - 15区 熊倉 美咲 (西会津中2年・新町)
  - 16区 伊藤 拓也 (海上自衛隊・牧)
- 監督 鈴木 洋 (軽沢)  
コーチ 佐藤 正光 (下小島)  
コーチ 雅楽川隼人 (宝川)



# 町民バトンタッチ

う た がわ てつ  
雅楽川 哲さん [宝川]

にっ た しやうへい  
新田 翔平さん (11月号) からメッセージ

これからもよろしくね。また怖い話を聞きたいな。

あなたの趣味は？  
スニーカー収集、ツーリング

特技は？  
目をつぶり3分で寝ること

熱中していることは？  
ソフトボール

自分を一言で表現すると？  
「口から先に生まれてきたようだ」と言われます

最近感動したことは？  
身長が少し伸びたこと

あなたのモットーは？  
好きなことには、お金を惜しまない

これからやってみたいことは？  
大型二輪免許を取りたい

次の方を紹介してください  
H・Hさん (橋屋)

大切なものは？『中学のときから使っているグローブ。つらい練習を共に乗り越え頑張ってきた宝物です』



## 町民 ギャラリー

### さゆり 中学

(9月30日学習会)

ポッチャンと一人旅する胡桃かな  
強風に寄する白波そばの花  
もてもての気候予報士台風禍  
秋深し一枚重ね仕事行く  
買物は稲穂の平風と行く  
栗飯に思ひをつなぐ母の味

白井 重子 (白坂)  
井上 洋子 (さゆりが丘)  
長谷川清子 (下小屋)  
武藤奈美恵 (上小島)  
星 多恵子 (9町内1)  
藤田 静子 (上野尻)

## 聞いて！ わたしの夢

ここでは西会津中学校の生徒の皆さんに、自分が思い描く夢や目標を話してもらっています。

今月は、生徒会の会長を務める2年・上野真実さんです。



### わたしの夢——

「将来の夢は、自衛官になることです。小学生のころ大雪で国道49号がストップしてしまったとき、陸上自衛隊の人たちが救助にあたったという新聞記事に心を打たれ、そんなふうにならねば人のために働きたいと思ったからです。縁の下の力持ちのような存在になって、一つでも多くの笑顔を守りたいです」

### 努力していること——

「部活の剣道と勉強を両立させることです。どちらかに偏らないように切り替えをしっかりと一つ一つのことに集中するよう心掛けています。学校のため生徒会長としても頑張りたいです」

### 未来の自分に一言——

「つらいこと、苦しいことは、いっぱいあります。それは自分を成長させるものです。つらいことなどは、きっと何倍もの良いことになって返ってきます。最後まであきらめずに頑張ってください」



まちの人口 ～11月1日現在～ (前月比)

人口	7,136人	(-11人)
男	3,429人	(-3人)
女	3,707人	(-8人)
世帯	2,766世帯	(-2世帯)

戸籍の窓口 ～10月受付分～ (敬称略)

お誕生おめでとう

佐藤 蓮 信くん 信英・香織 滑 沢  
佐藤 正 英くん 厚・雅子 向 原



ご結婚おめでとう

長谷川 大 樹 1町内  
一 登 菜 美 榎木平  
田 崎 新 悟 森 野  
小 檜 山 美 香 喜多方市  
仲 川 徳 清 平 明  
佐 藤 綾 子 川俣町



お悔やみ申し上げます

須藤 ハル (90) 洋 祖母 2町内  
甲 斐 ト ヨ (103) 苙 一 母 4町内  
佐藤 政 一 (89) 政 雄 父 出ヶ原  
長谷川 九 郎 (85) 雄 二 祖父 軽 沢  
齋藤 良 悦 (81) 悦 郎 父 上野尻  
高津 太 郎 (84) 菊地和行 父 端 村  
廣瀬 理 (75) 仁 父 白 坂  
小原 行 平 (80) 博 明 父 宝 川  
齋藤 キク子 (83) 土屋金一 母 熊 沢



個人住民税の特別徴収義務者を指定

会津管内の13市町村と福島県では、個人住民税の特別徴収を推進するため、来年4月から、法令要件に該当し、従業員に給与を支払うすべての事業主の皆さんを特別徴収義務者に指定します。特別徴収義務者には、従業員に支払う毎月の給与から個人住民税を差し引いて町に納めてもらうこととなります。ご理解とご協力をお願いします。

事業主の皆さん  
ご協力をお願いします

町民税務課 ☎ 45-2212

平成27年1月から制度改正

70歳未満「国保加入者」の自己負担限度額が変わります

健康保険の制度改正に伴い、来年1月から国保に加入する70歳未満者の高額療養費の自己負担限度額が下記のとおり変わります。

70歳以上75歳未満の皆さんの限度額に変更はありません。

【本年12月現在】

所得要件	自己負担の限度額
基礎控除後の総所得金額等が600万円を超える世帯	3回まで=150,000円 + (総医療費 - 500,000円) × 1% 4回目以降=83,400円
基礎控除後の総所得金額等が600万円以下の世帯	3回まで=80,100円 + (総医療費 - 267,000円) × 1% 4回目以降=44,400円
住民税が非課税の世帯	3回まで=35,400円 4回目以降=24,600円



【平成27年1月以降】

所得要件	自己負担の限度額
基礎控除後の総所得金額等が901万円を超える世帯	3回まで=252,600円 + (総医療費 - 842,000円) × 1% 4回目以降=140,100円
基礎控除後の総所得金額等が600万円を超え901万円以下の世帯	3回まで=167,400円 + (総医療費 - 558,000円) × 1% 4回目以降=93,000円
基礎控除後の総所得金額等が210万円を超え600万円以下の世帯	3回まで=80,100円 + (総医療費 - 267,000円) × 1% 4回目以降=44,400円
総所得金額等が210万円以下の世帯(住民税非課税世帯を除く)	3回まで=57,600円 4回目以降=44,400円
住民税が非課税の世帯	3回まで=35,400円 4回目以降=24,600円

問い合わせ先 健康福祉課 ☎ 45-2214

以下は広告です。内容については、広告主へお問い合わせください。

第9回 THE 9TH NISHIAIZU INTERNATIONAL  
ART VILLAGE EXHIBITION 2014  
西会津国際芸術村公募展2014から

11月号に引き続き第9回西会津国際芸術村公募展2014の入賞者に伺いました。今回は、一般の部で大賞に選ばれた永井祥浩さんのインタビューを受賞作品とともに紹介します。



大賞受賞作品「ショウ」

来年3月には友人と二人展を東京で開催する予定で、それに向けて、しっかり作品を仕上げるのが当面の目標です。今回の受賞に恥じぬよう、また、骨身を削って制作にあたる全国の数多くの画家と競えるようにさらに精進していきたいと思えます。

このたび西会津国際芸術村公募展で大賞を受賞することができました。こうした機会をつくってくださった関係者の皆様に感謝しています。  
幼い時から二十歳前まで、私はいわき市で暮らしていたため、懐かしさや親しみを覚え、この公募展への応募を決意しました。10月11日に行われた表彰式で国際芸術村を訪れ、ほんわかとした雰囲気心が和み、温かさを感じました。

以前、ある画家の画歴の欄で、この公募展の名前を見掛けたことがあるので、制作に取り組む人たちに着実に浸透しているようです。かかわった者として国際芸術村の一層の発展、さらに福島県の復興に貢献できればと思っています。  
応募した作品は日本画で、古い記憶を手繰るうちに心の中に見えてきた景色を描きました。制作には2カ月ほどかかりました。



ながい よしひろ  
永井 祥浩 さん

愛知県岡崎市在住。今回「ショウ」で大賞に輝く。



国際芸術村公募展2014は、9月20日から10月16日まで西会津国際芸術村で開かれ、芸術家を目指す学生や美術愛好家の皆さんから寄せられた作品が旧新郷中学校の校舎を埋め尽くしました。

大賞に次ぐ準大賞には、青少年の部は、宮城県宮城野高等学校2年・阿部汐夏さんの作品「真剣」(上写真一番左)が、一般の部では、新潟県新潟市の会田華瑠那さんの「ソナチネ」(上写真左から2番目)が選ばれました。

東京・巡回展は11月8日から8日間、世田谷区で開かれ、入賞作品が展示・紹介されました。

今月の表紙

採れたてのミネラル野菜を交流物産館よりっせなどで販売し、ミネラル栽培の普及拡大、さらに食育などに取り組んできた「にしあいづ健康ミネラル野菜普及会」が、今年度の豊かなむらづくり全国表彰で農林水産大臣賞に輝きました。11月6日、サツマ芋の収穫に集まった会員の皆さんは受賞の喜びを分かち合いました。

